

## 郷土館発

### 幻の鉄道路線

夢と消えてしまつたもの  
を紹介しよう。

郷土館前に展示されている田口線車両、田口鉄道として出発し、昭和七年に全線開通してから四十三年の廃線まで北設楽の住民の足として、また広大な森林資源の輸送手段として活躍した車両である。



長い風雪に耐え、郷土館前に保存されている田口線車両

実現された。

これに鳳来寺鉄道が川合まで、三信鉄道がそれ以北とつながり、飯田線の基礎となつた。東三電気鉄道はその十年後、長篠(現大海)から津具への敷設を申請し、測量まで終えた。しかし、理由はわからないが計画は頓挫した。

信参鉄道は、碧南を起点とし、

安城、挙母(豊田市)、足助から稻武を経て飯田までの路線を計画し、認可を受けて明治四十年に会社を設立したが、不況による発起人の没落、資金調達の不調等により、会社は破産宣告を受け、計画は潰れてしまった。

大正十一年に制定された改正鉄道敷設法には、整備すべき五十の鉄道が別表として掲げられている。北海道から始まり六

### 十三番目に

静岡県掛川ヨリ二俣、愛知県

大野、静岡県浦川、愛知県武

節ヲ経テ岐阜県大井ニ至ル鉄

道 及 大野付近ヨリ分岐シテ

愛知県長篠ニ至ル鉄道 並ニ

浦川付近ヨリ分岐シテ 静岡県

佐久間ニ至ル鉄道

とあり、この鉄道は遠美鉄道」と名付けられている。

田口鉄道は、これらの中でも実

現された貴重なものである。そ

れだけ、森林資源と住民の声の

大きさが際立つていたのである

う。田峯駅から郷土館に持ち込

まれている資料には、町に出た

息子に正月の餅や串柿などを送

った記録など、住民の生活に鉄道が生きていたことをうかがわせるものがある。

その田口鉄道が開業されるよりも前に、奥三河各地で様々な鉄道の敷設が計画され、実現されず、消えていったことを御存知だろうか。

現在JR飯田線となつていて、鉄道は、豊川、鳳来寺、三信、伊那電気の各鉄道四社が国営化によつて合体したものである。この四路線は、それぞれ大変な苦労をしてつくりあげられたものであるが、敷設までこぎつけたものであるのでまだ救われる。

郷土館前に展示されている田口線車両、田口鉄道として出発し、昭和七年に全線開通してから四十三年の廃線まで北設楽の住民の足として、また広大な森林資源の輸送手段として活躍した車両である。

(奥三河郷土館)

館長 平松 博久